

図書館だより



No.180

2011(平成23)年12月7日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218 Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp>

寒い冬に読書はいかがですか？

寒い季節になりました。このような季節には、暖かいお部屋でゆっくり読書をしてみてはいかがでしょう？当館では、ゆっくり読書をするために最適な小説や季節に合せた本などを多数集めて、皆さまのご来館をお待ちしております。



【展示コーナーのお知らせ】

「まほろん」が図書館にやってくる2ヶ月

期間：平成24年1月6日（金）～平成24年2月29日（水）

福島県の南、白河市にある福島県文化財センター白河館「まほろん」が、福島県の北にある図書館へやってきます！まほろんの収蔵資料展を開催する他、まほろん職員による大人向けの講座やまほろん職員と当館児童資料チームのコラボレーションによるお話し会 + ワークショップを開催の予定です。

【ロビー展示コーナー 今後の予定】

○ 第9回猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト入賞作品

平成23年12月2日（金）～平成23年12月27日（火）

第9回猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト入賞作品を展示します。

○ 「書自由也」ブログより書と水墨画展（仮称）

平成24年1月11日（水）～平成24年2月1日（水）

書と水墨画の個展と支援者の書や掛軸、額などの展示を予定しています。

【年末年始の休館日】

* 年末年始は長期休館となります。ご注意ください。

12月28日（水）～
1月5日（木）

【震災関連資料の寄贈のお願い】

当館では、東日本大震災における福島県の被災・復興に関する資料を重要な資料ととらえ、重点的に収集しています。

こうした資料を刊行された方は、ぜひ3部ご寄贈いただけますようお願い致します。

*詳しくは当館 HP をご覧いただくか、地域資料チームまでお問い合わせ下さい。



【10月からの開館時間】

○ 火～金 9:30～19:00

* 3階閲覧室／インターネットコーナー 9:30～17:30

* こどものへや／児童図書研究室 9:30～17:30

○ 土・日・祝 9:30～17:30



【現在ご利用いただけるサービス】

- 資料の閲覧・貸出・調査相談・複写・インターネットデータベース・マイクロフィルム・資料宅配サービス
- * 公開図書室は工事のため、資料は職員がお持ちします。
- * 視聴覚資料はご利用いただけません。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文・社会

『「盗まれた世界の名画」美術館』

サイモン・フープト／著 創元社
2011.8 706.7/74 118

名作と呼ばれる美術品は、その金銭的価値ゆえか、あるいは作品自体が放つ魅力ゆえか、ときに犯罪者の手によって持ち主のもとから奪い去られていきます。

この本は、ピカソやモネ、ゴッホといった世に名だたる芸術家たちの傑作を、それらが巻き込まれた盗難事件のあらましと共に鑑賞していく一風変わった目録です。美術界に影を落とし続ける盗犯の事跡が、多くの作品写真を交えて臨場感豊かに描かれています。

『ふむふむ おしえて、お仕事！』

三浦しをん／著 新潮社
2011.6 366.29/シ 116

自分の持ち味や経験、知識、技術を活かして仕事をしている16人の女性に、驚きと感動をもって「ふむふむ」と相槌を打ちながら聞いたインタビュー集です。

靴職人、染色家、女流義太夫三味線、動物園飼育係と職業はさまざまですが、仕事の話の中から、そのひとだけの物語が見えてきます。個人と社会が織あわさった「仕事」を通じて、人と人がつながっていくということが感じられる一冊です。

自然

『お母さんのための放射能対策BOOK』

野呂美加／著 学陽書房
2011.9 493.195/ミ 119

チェルノブイリ被災児童を1カ月の転地療法に招く活動を19年間続けてきた著者が、いま日本の子どもたちの身体と心を守るための手法や知恵をわかりやすくまとめた本です。

その保養活動で目にしてきた厳しい現実も書かれています。食事面、日常生活面、心理面で留意すべきことにも多くの頁が割かれています。

転地するしないにかかわらず、この現実を生きることを強いられたいお母さん、お父さんの立場で、という視点が貫かれています。

『日本の魚は大丈夫か (NHK出版新書)』

勝川 俊雄／著 NHK出版 2011.9 661/ホ 119

三陸を始めとする被災地の漁業は、船や港、市場を単に直すだけでは復興できないと著者は考えます。なぜなら震災前から日本の漁業は、限られた魚を多くの漁船で早い者勝ちにとった結果、漁獲量・生産額ともに先細ってきたからです。持続的に儲かる産業に復興するには、適切な資源管理によって子を産む親魚を獲り残すことと、獲った魚を高く売る必要があります。具体策を乱獲による漁獲減からV字回復したノルウェーの例を元に提案しています。

また、海と水産物の放射能汚染、健康への影響の考え方の解説が最後の章にあります。

雑誌・新聞

農業をはじめとする様々な産業への影響から、環太平洋経済連携協定(TPP)への参加・不参加が、連日各種メディアで報じられました。

そこで、環太平洋経済連携協定を特集した雑誌の中から、当館所蔵の一部をご紹介します。

『世界』2011.4発行 岩波書店 Z051/S1

○特集：TPP批判一何が起きるか

TPP推進の背景やTPP参加による日本の経済成長への影響が、Q&Aの形でまとめられています。また、TPP参加によって危惧されることが「四つの落とし穴」という形で簡潔にまとめられているため、TPPについて一から知識を得ることができ、経済の知識があまりない人にも読み進めることができます。

『経済セミナー』2011.7発行 日本評論社 Z330.5/K13

○特集：TPPと日本の農業

日本の食料自給率への影響や既存の農業制度との関わりなど、メディアでも大きく取り上げられた農業とTPPとの関係を専門に扱っています。

専門家の論文を集めた特集なので、気になるテーマだけを読むこともできますし、全部読めば、様々な角度から農業とTPPとの関係を知ることができます。

地域

『こころの幻燈会』アポロガス元気エネルギー供給事業部／編 アポロガス元気エネルギー供給事業部 2011.11 LS911.5/A19/1

東日本大震災の後、私たちは多くの方々から支援を受け、人のあたたかさを感じながら生活してきました。

この本には「心のあたたかさ」をテーマに東北地域の方へ公募した詩・短歌・俳句が収録されています。

地震後、父と会えずに寂しがる子どもの詩。妹とケンカした後、抱きしめて仲直りする姉の短歌。祖母のあたたかさを心で感じる孫の俳句。

素直で飾らない言葉が使われた作品は、読み進めると満たされた気持ちで心が一杯になってゆきます。

『おもちゃの王様が語る おもちゃの昭和史』

佐藤 安太／著 牧野 武文／構成 角川書店
2011.6 L289/S182/1

福島県石城郡沢渡村(現・いわき市三和町)出身で、おもちゃメーカー「タカラ」(現・タカラトミー)創業者である佐藤安太氏について綴られた一冊です。

モノに愛着を持ち、おもちゃの世界観を創りあげる手法で「リカちゃん」や「トランスフォーマー」などのヒット商品を次々と出した安太氏の経営哲学とはどのようなものだったのでしょうか。

タカラから引退後、やり残した「人づくりの方法論」を完成させるために86歳にして博士号を取得。今なお情熱を燃やし続ける安太氏の半生に迫ります。